

平成29年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立恵那高等学校

学校番号	49
------	----

I 自己評価

1 学校教育目標	質実剛健・自重自治の伝統精神を基調とし、進取闊達にして知性と情操豊かな民主国家の形成者を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇進路指導	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<p>「学校は、生徒に適した進路情報を示し、生徒の可能性を引き出そうとしている。」という項目では、「あてはまる」と回答している保護者は68%、生徒は75%であった。校外実施の大学説明会やオープンキャンパスの案内等、進路情報の提供に努めた。校内での大学説明会、進路指導部による講演会等、進路意識の高揚を図るための行事等を新たに実施した。</p> <p>「学校は、生徒の進路希望に沿った適切な進路指導をしている。」という項目では、「あてはまる」と回答している保護者は72%、生徒が72%であった。1, 2年生に対して進路指導部としてさらに担任・学年団をサポートして意図的、系統的な指導を実施していく必要がある。</p>	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・国公立大学センターなし及びあり推薦入試、AO入試の利用 ・土曜講座、補習、放課後センター演習の充実 ・進路ノート作成と活用 ・高大連携、校外行事への参加の促進 	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年、各教科、対外機関との連携強化 ・企画部、理数科部との連携による行事等への取組 	
6 目標達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定 あるいは指標	
①適時性を重視した進路情報の収集・分析・提供	①AO・推薦・一般入試、センター試験の結果分析	
②補習、サライ講座、センター演習、小論文・面接指導の充実	②模試や入試結果の分析と現状把握と対策	
③SSH及び総合的な学習の時間との連携	③SSH及び総合学習の推薦入試への利用	
④他校との連携及び高大連携講座・行事への参加	④高大連携講座や対外行事に参加した感想	
8 取組み状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
①「進路ノート」の活用と四半期ごとの構造図の作成	①適時性を重視した進路情報の収集と提供	A (B) C D
②推薦・AO入試の小論文指導、面接指導の実施	②補習や講座等の校内体制の確立	A (B) C D
③学部学科別ガイダンス、職業講話、校内大学説明会、高大連携講座、名大入試研究講座等の行事の実施	③SSHや総合学習との連携	A (B) C D
④放課後センター演習時における上位者補習の実施	④校内外行事活動への参加	A (B) C D
11 成果・課題	<p>OPTAと協力し、昨年度に引き続き校内で大学説明会を実施した。参加大学を11校に増やし、2展開とした。放課後希望者対象であったが生徒169名と保護者71名が参加した。名古屋大学主催の「名大 MIRAI GSC」に4名、岐阜大学地域科学部主催の「高校生のためのオープンカレッジ in 東美濃」に8名、地域医療センター主催の「今、ともに考えようへき地医療」に6名参加した。進路選択・検討の機会を提供することにより進路意識の向上を図ることができた。</p> <p>○1, 2年生に対しては、授業の内容が十分定着していない生徒に対して平日補習を実施し、授業の内容や基礎学力定着を図り、成果が徐々に表れてきている。</p> <p>○放課後センター演習と同時並行で実施した上位者向けの記述対策補習を実施して2年目になるが、生徒・教員とも学力向上の手ごたえを感じる事ができた。</p> <p>▲1, 2年生の「進路ノート」を新たに作成し、将来の考察や自己を見つめる機会に利用するなど進路指導に活用できた。進路ノートを含め進路行事の関連性が分かる四半期ごとの構造図を作成したが、他の行事の関係で計画通りに実施できなかつたり、クラス独自のホームルームが少なくなり課題が残った。</p> <p>▲教員用「進路マニュアル」を作成し、時期ごとに通信を利用し周知しようとしたが後半やや不十分となり、全職員による統一した進路指導という点では課題が残った。</p>	
	総合評価 A (B) C D	

12 来年度に向けての改善方策案

- 「進路ノート」の意図的・系統的活用と運用。
- 基礎学力定着を更に図るための補習等の実施内容の検討。
- 受験生への切り替えのための「集中勉強会」の検討と実施。

II 学校関係者評価

実施年月日：平成30年1月24日

【意見・要望・評価等】

- ・幅広い学力の生徒が集まっている。基礎学力の定着に尽力していただき、生徒個々の学力の向上を図ってほしい。
- ・生徒一人ひとりの希望や適性を把握し、一人ひとりに適した教育をして、進路希望が実現できるようにして欲しい。
- ・大学卒業後、世界で活躍人材を育成するとともに、地元で活躍する人材の育成も考慮した進路指導をお願いしたい。